

第8回基礎情報学研究会実施報告

2014年6月20日
基礎情報学研究会 高田信夫

- 1 日時：2014年5月31日（土）14：00～17：00
- 2 場所：コンピュータソフトウェア著作権協会会議室
- 3 参加者：27名
- 4 テーマ「大学の情報学教育と基礎情報学—日本学術会議による大学の分野別教育課程編成上の参照基準から—」
- 5 萩谷昌己氏（東京大学大学院情報理工系研究科教授）
- 6 講演および討論の内容

講師の萩谷先生から、文部科学省から学術会議に依頼された「大学教育の分野別品質保証と参照基準」についての説明があったあと、情報学分野の委員会のメンバーとそのメンバーによりどんなことが話し合われたかの説明があった。

その中で情報学固有の知識体系として、次の5つが提示された。

- ア 情報一般の原理（基礎情報学）
- イ コンピュータで処理される機械情報の原理（情報工学）
- ウ 情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術
- エ 情報を扱う人間と社会に関する理解（社会情報系）
- オ 社会において情報を扱うシステムを構築し、運用するための技術・制度・組織

これに対して参加者の中から、第一番目に基礎情報学の考え方をもってきたことについては評価するが、説明の中で認知科学や人工知能的なことに触れていなかったことに対する不満や、二次サイバネティクス的な要素が入っていないことに対する不満の意見が出された。

また、高校現場からは、この参照基準が大学の専門課程向けのものであることに対して、一般教養での情報教育に対する参照基準は考えていないのかという質問があったが、それについては、管轄外であるという返事であった。

さまざまな人から意見が出され、基礎情報学的要素がもっと入っていてもいいのではないかという意見もあったが、西垣先生からは、「一挙に進めることはできない。ここまできただけでも大きな進歩と言えるのではないか」という意見が出され、時間がきたので閉会となった。